

## 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告(2019年度)

### Annual reports from Mihara Memorial Hospital Brain Bank (FY 2019)

井上 拓也<sup>1)</sup> 田野 光敏<sup>1)</sup> 佐藤 菜津美<sup>1)</sup> 布施 葵<sup>1)</sup> 青柳 真一<sup>1)</sup>  
諏訪部 桂<sup>1)</sup> 高橋 陽子<sup>1)</sup> 赤津 裕康<sup>3)4)</sup> 村山 繁雄<sup>5)</sup> 美原 盤<sup>1)</sup>  
美原 恵里<sup>2)</sup> 美原 樹<sup>1)</sup> 高尾 昌樹<sup>1) 6)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院

2) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース

3) 公立大学法人名古屋市立大学 医学研究科地域医療教育学分野

4) 医療法人さわらび会 福祉村ブレインバンク

5) 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク

6) 埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科・脳神経内科

[目的] 日本神経科学ブレインバンクネットワークを構成する美原記念病院ブレインバンクにおける2019年度末までの現状を報告する。

[方法] 当施設は2007年からブレインバンクを整備し、日本神経科学ブレインバンクネットワークの施設として、剖検、その後組織診断できる体制を確立、症例を蓄積している。右脳と脊髄の一部、必要に応じて一般組織を-80℃で保管し、分子生物学的解析、研究のため保存している。免疫染色は自動免疫染色装置で施行し、他施設からの剖検依頼や標本作製、診断依頼、特にプリオン病への対応も可能となった。

[結果] 現在、275例(2019年12月末)の凍結試料を有する。その中で、最も多い疾患はプリオン病で61例あり、臨床診断、入院受け入れ、剖検、組織診断まで対応し、剖検依頼も多い。次に多いのは筋萎縮性側索硬化症の39例。続いて脳梗塞27例、アルツハイマー型認知症21例、脳出血21例、レビー小体型認知症15例、脊髄小脳変性症10例、多系統萎縮10例、進行性核上麻痺8例、パーキンソン病8例、その他の神経変性疾患5例、110歳以上の超百寿者14例、その他の症例が36例である。

2019年12月末で他施設からの剖検依頼が11例あり、プリオン病に関して7件、慶應義塾大学百寿総合研究センターとの共同研究で県外の110歳以上の症例を岡山済生会総合病院、関門医療センターの協力により4件行った。標本作製・診断依頼は22件であった。また、海外の機関との共同研究として組織提供も行っている。

[結語] 近年、プリオン病を中心に、新たな施設からの、病理解剖の依頼が増加してい

る。今後も、ネットワークを介してブレインバンクの継続により、様々な研究への対応を目指すことが重要である。